

研修会報告

2024年2月18日

文責：小泉 照樹

研修会テーマ「2023年度宮臨技病理・細胞診部門研修会

～病理検査における試薬管理～」

開催日時 2024年2月18日（日） 13:00～16:00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 小泉 照樹

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 155 名 入会申請中会員 0 名 非会員 1 名 賛助会員 0 名 学生 0 名

合計 156 名

講演1 「職域における新たな化学物質管理

～法令改正の概要と病理検査室での対応について～」

独立行政法人 労働者健康安全機構

労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理健康センター

化学物質情報管理部 部長 山本 健也 先生

講演2 「試薬管理に関する当院の取り組みについて」

東北大学病院 病理部 今野 かおり 技師

講演3 「廃液処理に関する報告」

仙台厚生病院 臨床検査センター 病理診断科 諸橋 彰 技師

16:00 終了

内容

本会は、今年度4月より一部改正された労働安全衛生法施行令に基づく新たな化学物質規制に関する研修会であった。法令に関する変更点や詳細、施設での化学物質管理を紹介したうえで、日常業務で取り扱う際の検査室管理や小さな疑問にも対応できるプログラムを企画した。

講演1では化学物質の管理などを専門に扱っており、本法令改正にも関与された産業医である山本健也先生より法令改正の概要や変更点、それに基づく病理検査室での対応に関して講演いただいた。病理検査室ではホルマリンをはじめ、標本作製や染色において様々な試薬・化学物質を取り扱うため、法令に基づく適切な管理は重要である。本講演ではリスクアセスメントを1つのキーワードとし、化学物質を取り扱う検査技師の身を守ること、また、環境への害を防ぐことの重要性が理解できた。今後段階的に管理対象物質が追加されることが予定されているため、本研修会のような場を利用して情報収集する必要がある、参加者においては大変有意義なものであったと考えられる。講演終了後も10個近くに及ぶ多数

の質問が挙がり、本内容に対する参加者の関心の高さがうかがわれた。

講演 2 では東北大学病院病理部の今野かおり技師より自施設における病理検査室での試薬管理について講演いただいた。病理検査室では様々な試薬・化学物質を使用するが、その管理や処理の方法については各施設で多種多様な方法が用いられている。東北大学病院では独自の試薬管理システムや廃液処理に関わる施設(部門)を有しており、それに基づく管理を行っているとのことであった。また、リスクアセスメントの実際の運用についても言及があった。市中病院では廃液処理を外部委託するケースも多く、全て同じような管理を行う事ができるわけではないが、参考となる点は多いと思われる。自施設と外部委託に関わらず、病理検査室として廃液を排出する以上は適正に処理しその排出方法に責任を持つ必要があると感じた。講演終了後は保護具や運用に関する質問などが挙がった。

講演 3 では仙台厚生病院の諸橋彰技師より廃液処理について講演いただいた。検査室から出た廃液など廃棄物の処理には様々な法律による濃度などの排出規制が存在する。これら法令に関する概要の他、本研修会にあたり部門員から以前より挙げられていた廃液処理に対する疑問への回答が複数紹介された。排出規制濃度などは国で定めるものもあるが、多くは自治体により異なることが多く、微量であっても基本的にはそのまま下水へ排出することなく、全て回収し適切に廃液として処理することが望ましいとのことであった。疑問点や使用に変更があった場合などは、迷わず各自自治体や外部委託業者、自施設の施設管理課などへ問い合わせることの重要性が示された。

本研修会は日臨技認定更新指定研修会となっており、県内のみならず全国より 150 名を超える多くの参加があった。Web 研修会という制限された空間ではあるが、全国どこからでも気軽に参加でき議論を交わすことができることは Web 開催の強みであると改めて感じられた。また、参加者数も多く活発な質疑応答が行われ、法令改正に対しての関心の高さを改めて感じた。化学物質は病理検査室のみならず試薬類を取り扱う検体検査に従事する検査技師にも関わるため、一部門での研修会に留めるのではなく、広く啓蒙すべき内容ではないかと感じた。また、研修会終了後のアンケート内にて認定技師に対する資格更新のための視聴確認方法への意見が挙がっており、今後 WEB 研修会を続けるにあたってはより参加しやすいような方法への見直しの必要性も感じた。今後も技術的な内容に限らず幅広く学べる研修会を企画・開催できるよう努めたい。